



今年の干支は「癸卯」です。干支とは、正式には「**十千十二支**」といい、十千とは、甲乙丙丁戊己庚辛壬癸の十から成り、十二支は子丑寅卯辰巳午未申酉戌亥の十二から成ります。

十千は、木火土金水の五行を基本としており、例えば甲は「きのえ」、乙は「きのと」と呼び、それぞれ「木の兄」「木の弟」という意味で兄は陽、弟は陰を指し、陰陽五行説の暦法の一つです。

十二支はその木火土金水から成る、**生命のう**ごきを表したものが本義で、誕生から次の生命への流れを表していますが、覚えやすいように動物が当てはめられたのが、いまの干支です。

その十千十二支の中でも、本年は**癸卯(みずの)**とのう年で陰陽五行に則れば、

十千の「**癸(みずのと)**」は**水性の陰年**を示し、その文字の由来は、二本の木を十字に交差させて、日の出日の入りを測り、ひいては東西南北を示し、そしてその四方から水が入り込み、大地を潤す春の象形といわれています。

十二支の「**卯**」の字は、お肉などが二つある等**価値の状態**を表す象形がそもそもの由来で、物々交換を表しているといわれています。貿易の貿の字の上に卯が当てられているのもその為です。また貿易をするという事は新しいやり取りをしていくという事にも繋がりが、卯は扉を開く**という意味**もあります。

この癸卯の年を総じて判じますと、四方から潤いをもたらす**流れを受け**、その中で**新しい扉**を開いていく年まわりといえるのかもしれないせん。また「**癸卯**」は音読みしますと「**きぼう**」とも読み、**希望の年**回りともいえそうです。

また、神道では「**因幡の白兔**」の説話にあるように、ウサギは幸運をもたらす動物とされており、皇室の重要行事は「**卯の日**」に行われる事が多い事から、ウサギは吉兆のしるしともいえます。また、**仏教経典『ジャータカ』**に見られる「**玉兔伝説**」や、欧米でも**多産の象徴**とされるなど、世界共通で**幸運と繁栄**をもたらす動物として親しまれています。

今年こそはコロナ禍から脱却の年となるようお願い、皆様にとつて**一步一步前進し、躍進**ある年となりますよう**祈念**申し上げます。

毎月一日発行(一月のみ元日に特別号、十五日に一月号を発行)

厄年の御祈禱

当宮では厄年の厄除け祈禱を受け付けております。左表にもあります通り、それぞれ厄年がございますが、特に数え年の男性**四十二才(昭和五十七年生)**、**女性三十三才(平成三年生)**の本厄の方は、大きな厄年となります。

厄除け祈禱はそういつた年回りに、災厄が訪れないようにと祈る御祈禱で、年中お受付していますが、節分前にお受けになられるのが吉とされています。当神社での御祈禱はご予約制ですので、事前にお電話かメール等ご予約下さい。(初穂料五千元)

- 御本社(神山町) 〇六一六三六一―二八八七
御旅社(茶屋町) 〇六一六三七一一五八六

Table with 3 columns: 前厄, 本厄, 後厄. Rows for 平成, 昭和, 令和. Includes age ranges and background color notes.

Table with 3 columns: 前厄, 本厄, 後厄. Rows for 平成, 昭和, 令和. Includes age ranges.

今月の暦

【祭礼】

歳旦祭(元日)：神事のみ 歳の始めの元旦を寿ぐ
筆始祭(二日)：神事のみ 書の三筆、三聖ゆかり
元始祭(三日)：神事のみ 宮中三殿鎮座の日 皇位の元始
若菜祭(七日)：神事のみ 七草粥 古くは人日とも
とんど祭(十五日)：御本社にて古し繩お焚き上げ
初天神祭(廿五日)：神事のみ 年初の天神さまご縁日

【節気】

小寒(六日)：これより寒中。寒中見舞いは十六日から。
大寒(廿日)：一年で最も寒い頃。みそぎ、寒稽古の時期。

【大安】

一月三日、九日、十五日、廿一日、廿六日

【朔望】

満月(七日)、下弦(十五日)、朔月(廿二日)、上弦(廿九日)

【祝日】

元日(一日)：年始
成人の日(九日)：平成十二年から一月第二月曜になった

【旬】

【野菜】 大根、蕪、水菜、春菊、海老芋、クワイ、七草
【果物】 柑橘類、リンゴ、レモン(国産)
【魚介類】 フグ、ヒラメ、ブリ、キンメ、タラ、ワカサギ
【その他】 小豆、こんにゃく、葛根、納豆、早咲きの梅

網敷天神社 SNS、地図サイト



編著 網敷天神社 禰宜(御旅社) 神主) 白江 秀 知